



私は震災の恐ろしさを今回の講演会で学びました。

阪神・淡路大震災で町がどのように変わってしまったのか、今日、写真を見させてもらって知りました。映画もちょっと見て、神戸新聞をつくっていた人々が地震が起きた当時、どのような行動をとったのかなど、とても詳しく知れました。

2022年1月17日の神戸新聞が朝配られました。一番最初に目に飛び込んできたのは、阪神・淡路大震災の記事でした。あの日から27年たちました。震災が起きてから、年がどんどんたっています。いずれ被災した人達がいなくなってしまう。そうすると、震災の記憶は消えてしまいます。私達が伝えていかないとはいけません。なので私は、両親や祖父母から聞いた震災のことを伝えていこうと思います。

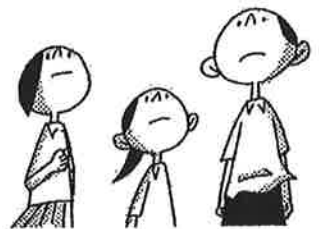
最近、南海トラフ大震災が起こるのではないかとされています。

起きる確率は80%以上でほぼ確実に起こります。

大きな津波も予測されています。

今のうちに各家庭で対策をしておくと思える命があると思います。

震災の経験をいかし、次の震災に備えようと思っています。





講演会を聞いて、いろんなことか分かりました。

地震でいろんな人かひかひにあって

たへんだったんだなと思いました。

地震で大変なのに新聞を作っててすごいなと思

いました。地震で家がなくなったり人もいるし

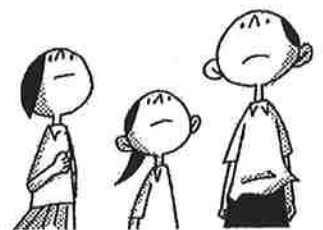
目かかったけどけかをしてなくなった人もいてすご

いかわりそうだなと思いました。

地震がおきたあとに火事もおきて家のしたじきに

なってる人もいてかわいそうだなとあらためて思いまし

た。





今は話を聞いて、平成に起きた災害が

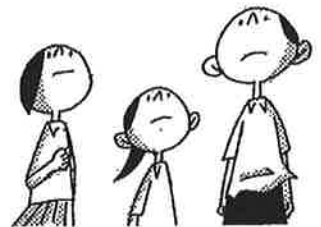
とても多くびっくりしました。

それによる死者の数も多く、悲しい
気持ちになった人が多いと分かりました。

だけど災害によるケガや死を防ぐようにすることが
分かった。自然災害は防ぐことはできないけど

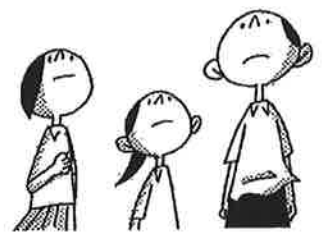
それによる二次災害は防いで減らすことができると思いました。

これからまだまだ自然災害は多く起きてしまう
のでそれから身を守るための備えをきちりと
やっておこうと今日話を聞いて思いました。





今日の講演会を聞いて自分も震災を
経験してしまった時、本当に冷静に行動が
できるのかなと思いました。理由は、震度7や強い地震
を経験した事ないし、映像やニュース、本でしか分かる
事ができないからです。そしてもし地震が本当にきて、
もしかしたら自分の身に何か危険をとらえる事があるかも
しれないから、毎月1回でも地震について調べた
り触れていきたいです。後、講演会で分かった事
は直下型など人が集まる所で起きた場合、死者、
焼失件数、建物の倒壊数などがすごく多くなる事
が分かった。自分たちは「ここに住れば大丈夫」とか「ここは安心
」とか思っているけど、震災は予定を上回るとか言ったりするので、
今自分がいる場所には安全という保証は無いので、油断
をしてはいけない事が分かった。避難した時に自衛隊
などが水や食料などを配っている物もあるけれど、数には
限りがあるし本当にもらえるのかすら分からないので、日常
からいつでも避難できる状態にし、
もし起きたらまず自分を守った後に
家族やとなりの人などを助け合
い協力して
目かけ合いたいです。





僕は戦争や地震の自然災害を実感したことは無かった
ので地震はとんでもなく怖いもので100万人くらい死んでしま

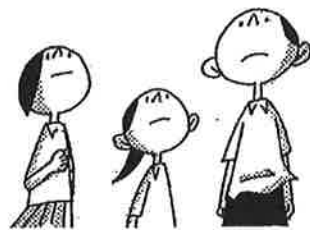
のかなと思ってはいたけど5000人くらいだと聞いてすくなくないなと思っていました。

でも話を聞いていると、5000人という人の数でも災害で死んでしまう人数にしては

とても多いんだなと感じました。正直僕の家は、災害には一応水や食料などの備え

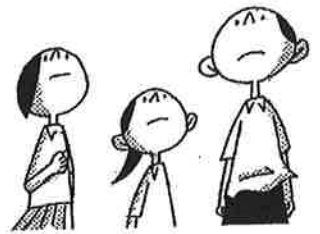
があるけど、家の中に地震が起きたらおぼれたらまずいだろうな'というもとかいくつがある

ので他人事だと思わずし、かり災害に備えていかなければならないなと思いました。



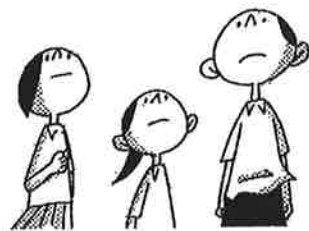


雨災についてよく考えることができた二時間
でした。





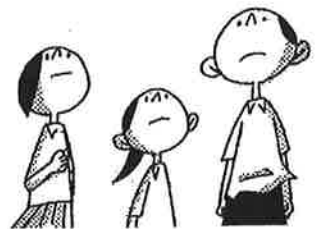
私は阪神・淡路大震災を経験していないから、
当時の状況がよく分かっていなかったです。
でも、今回の三好さんの話を聞いて、どれだけ大
変だったかがよく分かりました。また、なにを守ることも大それたか
分かりました。まず、1つ目は災害にたいする知識を身に付ける
ことです。何も分からないうちから、自分の命以外にも他人の命
を守ることもできなくなります。でも知識を身に付けておけば、
地震がおきたときにどうすればいいかわかります。火災がおきたとき
どこに逃げればよいかわかります。2つ目は、地域の人達と
の交流です。もし、なににも交流がなくて災害がおきたとき
に、誰からも助けがこない可能性もあります。でも地域の
人達とふだん、交流をしておくと他の人からの助けを借りるこ
とができます。一人で多くの人命を守ることに繋がると思
います。3つ目は、これから語りついでいくことです。今日みたいに
何も知らない人達に震災の大変さや命の大切さを語りついで
ることにより、災害がおきたときにどうすれば命を守るかを判
断することができます。これらの3つから、震災について考えること
ができました。まだ、深くは知らないけど、
ちょっとしたことで覚えておき、震災がおこ
ったときにいかしていければいいなと思
いました。





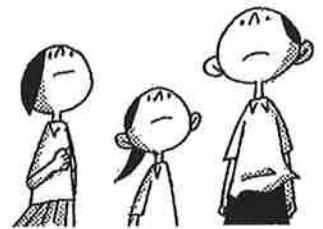
私は今回の震災講演会を聞いて、
改めて災害の怖さを知りました。

阪神・淡路大震災、1995年、1月17日、午前
5時46分、死者は、6434人、明石市では11人が亡くなりました。
また、阪神高速道路は橋脚が折れ、635m
にわたって横倒れに倒れ、からやみ建物が倒れ
、燃え、流されました。そして、多くの人々が
亡くなりました。私はまだ、その頃は生
きていたけれど、どのくらいだったのか、悲
しいのは分かってはいたけれど、今回の授業で分かった
気がしました。今回の授業で阪神・淡路大震災が
と学んだことは、1人が死ぬことで多くの人々が
苦しんだり、悲しむことが分かって、大規模な災害が起きて
るとまだ生きていた人ほどに語り継ぐことが大事だ
ということが分かった。阪神・淡路大震災が起きて
27年、これからいつ災害が起きてどのように用意しておく
べきかについて、いざという時に使えたらいいと思
いました。亡くなった方々の思いを受
け継いで生きていこうと思いました。



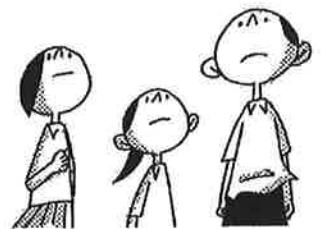


今日、三好さんから、震災講演会を聞いて、最初に
思ったことは、地震などの災害は、とても怖いなと
思いました。なぜかというと、自然災害は誰も予測
できないし、どこでいつおこるのかわからなく、無防備な状態のとき
にやると、人の命をうばって、人を悲しませるからです。だから、自然
災害は怖いなと思いました。話を聞いていくと、とても悲
しいことだらけだなと思いました。昭和では戦争で苦し
み、平成では自然災害で、多くの方が亡くなっています。罪も
何も無い人が巻きこまれたと聞くと、とてもショックです。
自分は大きい地震などという自然災害にはあたることがなく
て、町の様子や人々の動きは分からないけど、三好さんは困ら
んじて、地震にあたり、何も何がおこったかわからなかった
と、言っほとんど大きな地震でびっくりしたと話していました。
垣の中には震だけはなく、津波や台風という、おそろしい
災害があります。これから、自然災害が何回も
押し寄せてくると思います。その時はお・は・し・もを守り、
自分の命を優先した後に他人のことを考え、助けたなどとして
いけるようにしていきたいです。





今日は三姉さんに阪神・淡路大震災で
起きた出来事などを教えてもらいました。
1月17日の午前5時46分に都市直下型の
地震が起き、当時史上最高の震度7を記録した阪神・淡
路大震災。6千人以上もの人が亡くなって、町の
建物にも大きな被害が及んだ。そんな中でも神戸新聞の人
たちは何が起きているか分からないような人たちに、今起きているこ
とを伝えるために、京都新聞と災害協定を組み、京都新聞社
で新聞を印刷した。このことを今日知った僕は神戸新聞社ほど
ても良い新聞社だと思いました。困っている人のために、自分をき
せいにし、みんなに情報を伝えられる。これはとても素晴らしいことな
のだと思います。そのことがすいと思われたのが、この神戸新聞
社の出来事を映画で全国に放映されたこともとても素晴らしい
ことだと思いました。地震などたれか考えでも想定するこ
とができないような自然災害が今の日本では一年に四、五回
きたりするようになっていきます。なので、これからは地震がきたとき
や、大雨、台風が起きた時でもいつでも対応できるように、生きの
びることできるようにするために、過去に
起こった事を忘れずに過さしていこうと思
います。





私は震災講演会をきかせてもらって、27

思うことがありました。17日は私が思っていたより、

たくさんの方が関わっていたということです。

神戸での被害が多く、他県ではあまり関わりがなかった

と考えていたけれど、三姉さんのお話の中で京都の新聞

社に助けてもらって神戸新聞が出せたときいた時は、

人々の助け合いが大切だと改めて気付きました。

京都の方々は自分達も大変なのに、困っている会社を

助ける、それだけ私たち市民に安全安心な新聞を

届けたいという気持ちで伝わってきて、なげにげなく

読んでいただけ、一冊一冊に感謝しないといけないほど

思いました。27日は、震災を経験していない

私たちにできることです。私たちは生まれてから、

中学二年生になるまで、大きな災害、地震に直面した

ことがないので、その時のよけ、その後の大変さ、

の想像がつかえません。でもたくさんの方、そして

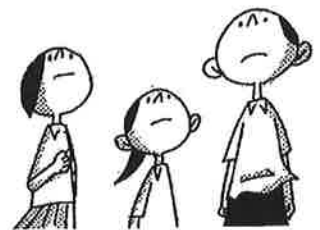
三姉さんからお話をきかせてもらって、どうにかしてでも

生きて、その経験を語り継いでいかなければ

いけない、その身証に感じました。

今私たちにできること。少しでも多く

考へ実行していかうと思ってきました。





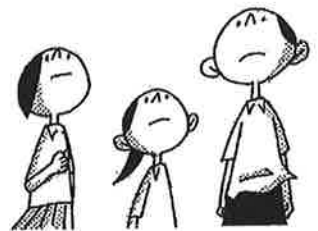
私は今回この講演会で日本でおきた
震災、災害、そしてその震災を目の前で見て
体験した貴重な話を聞き、あらためて「災害の怖さ」に
ついて知ることになりました。

毎年この時季になると避難訓練や震災について学ぶ
ことはありました。しかし具体的な数字や写真を見る
ということはあまりありませんでした。しかし、三好先生は
「何人が亡くなった」「ここで何人があった」「など」ことごとく
おぼえておられ、体験したこと、記事にしたこと、全てを
鮮明に覚えている。そのぐらいしつこく学的な出来事だった
んだ」とわかりました。

三好さんのように新聞記者の方も震災がおきたときは
おどろきと恐怖があったのにもかかわらず、全ての人に
正しい情報が伝わるように、読者を戸惑ませない記事を書き
続けるということは昔前ではできないことだ”と思いました。

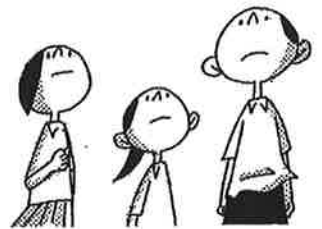
大きな震災を体験していない世代の私は知識や体験談を
聞くことしかできませんが「もしも」を想定し、

色々な情報を得て、備えを少しでもして、
おちついた判断のできる人にならなければいいと
思います。





私は生まれてから一度も大きい地震にあ
たることがありません。だから、「震災」という言
葉が身近になく、考える機会もあまりありませんでし
た。今回の講演を聞いて、新聞やニュースでは知りこ
のどきな「震災」の恐ろしさを知りました。目に見えて
分かる地震のゆれや、家具の転倒・停電・火災・窓が
うすがり水が... いろんな受け入れがたいことを目にし、
恐ろしく、怖く、鳥肌がたちました。中には亡くな
れた人や、行方不明の人、大けがをした人など、震災によ
り、たくさんの方が命が奪われ、当たり前前の日常生活も奪わ
れてしまいました。どの話も信じがたく、頭がツリ
ていきませんでした。今、震災が起きると、私には何
もできないと思います。現実を受け止める事ができず、
頭が直いつかず、ただただかたまりだけです。周りに家
族や友達、知り合いがいなく、一人に居るなんて、考えられ
ません。自分に当てはめて考えると、考えただけで精一杯でした。
しかし、いろんな恐ろしさを知った今だ
からこれ、いろんな事に目を向けたとい
い心情の変化があった講演会では
た。

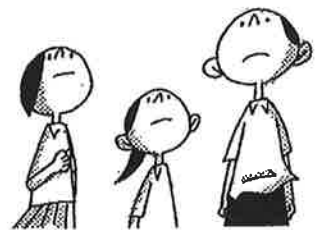




私は、震災講演会を聞いて思ったことが
いくつかありました。1つ目は、改めて震災は
こわいし、いつやってくるか分からないこわさ
など、たくさんのこわさを感じました。私は震度5以上を体
験したことはないのですが、どれくらいゆれて、どれだけのひか
いがあるのかを知りません。しかし、今日の阪神淡路大震
災のドラマを見ると、27年前に起きた地震を体験したく
らいのこわさがたくさんありました。

2つ目は震災を体験した方々の気持ちです。三好さんの
お話にあつたように神戸へ帰りたくても帰れないという人が
たくさんいたということと、私が驚いたのは仮設住宅の中
で亡くなった方のお話です。身近な人を亡くした人や
体験した人がどんなに苦しくつらい思いをしたのか。それ
を感じられる講演会でした。

6434人も命をうばった地震。私はこれからどんな
ことができるかを考え、自分の命、家族・友達のを1つで
も多く守れるようにしたいです。また、「1.17」を忘れる
ことなく知らない人達に伝え、これから
生活していきたいです。



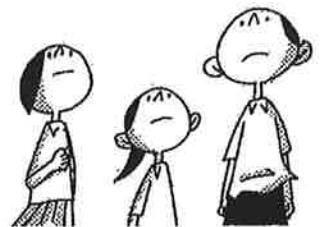


ぼくは三好さんの震災講演会を聞いて
思ったこと2つあります。

1つ目は、地震が1つおきただけでこんなに物
物がたおれて、ぐちゃぐちゃになるんだなと思いました。
なぜなら、地震のせいでは窓ガラスがいっぱい
割れて、駅ホームの上屋などがおち、家の中では
物がたおれいろいろな方向から、物がぶら下がる
からであって震度7までいくと、ビルがたおれて
土砂くずれがおき、津波までおそってくるで大変であ
るのでぼくは耐震化するべきだと思います。

2つ目は、地震が起きて大変なのに、みんなに
新聞をつくらうとした。神戸新聞の人もおおいと思
います。なぜなら、地震が起きた後すぐに、新聞をつくるために
屋外で、私たちのために、いろいろ新聞をつらって
安全安心の情報を提供し、読者に役立つことを
すべからずおおいと思いました。

ぼくは、三好さんの話をきいて地震がどれだけおこ
ておそろしいものだと知るこことができました。

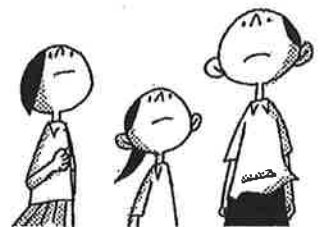




今日あった震災言募演会では色々なことを

分かることができました。昭和は戦争の時代、平成は災
害の時代、令和でも災害、病気の時代になっています。いつ

かは平和と安心に暮らせる時代がきてほしいなと思いました。今日から27年前
の1月17日は大震災が起こった日です。僕はあまりわからないけれど、27年前
の今日に大震災が起こった日だと思うと少しこわいです。三好さんのほなしでも
あった震災時のほなしは少しこわく、もしこの時代に生まれていたらど
うなっていたんだろうと考えるだけで少しこわいです。最近では日本の下
の方にある島で火山が噴火し日本にも津波がきたりしました。他にも、
30年に一度といわれている南海トラフ地震などもまたまた心配しな
いといけないことが多そうです。さかいうちに大きな災害が起こるかわら
ないのでも今からでも対策をし、自分の命を守ることを大切だと思い
ました。僕は今日三好さんのほなしをみて少し感動しました。これは、震災
があっても新聞を出版するということだと思います。それをどうする神戸新聞はすごいなと
思いました。阪神・淡路大震災では色々な被害がでてきたなかた
や、けがをしたなかたなどにたいに絶対にわすれてはいけないなと思いま
した。3.11である東日本大震災も絶対にわすれないことが大切だと
あらためて思いました。

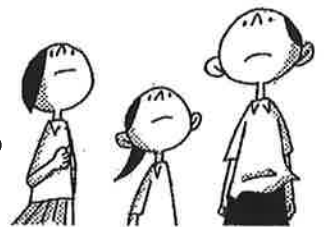




阪神・淡路大震災では、私が予想していた事よりもはるかに、いろいろな災害が起っていたのだと気がさせられました。

死者は、6434人でこの中の11人が明石市という事を聞いて、どうやら防げるのたろう、というふうに思いました。地震は自然災害という分類に入っていて、他の災害もそうだけど、どうしようもできません。防ぐ事しかできないのです。では、どうしたら地震と戦っていきけるのでしょうか？

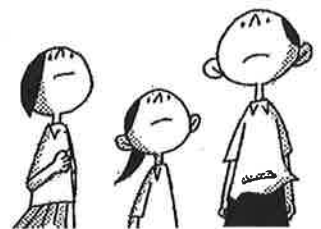
私個人で思うのは、「非常」という文字が書かれた物を、身近に置いたらいいのかなと思います。例えば、非常食、非常水などだと思います。「非常」というものだけではなくても、手軽に持ち運べる、ふとん、懐中電灯、タボール、服、ばんそうこうなども入れておくといいのかもしれません。このようにいつこの大規模な災害が起こるかわかりません。なのでそれに備えた準備をしたいなと思います。それと、「おはしも」おさない、はしらない、とやべらない、もたらないも心がけていきたいなと思いました。





今日は、高丘中学校にお来しいたき、ありがとう
ございました。

今回の授業で、自然災害に対するの恐しさを
知ることができました。27年前の1月17日、午前5時46分に、
とても大きな地震がきたことは、知っていました。けれど、正しい
死者を知らませんでした。死者6434人のうち明石市民が11人、
淡路から62人も出ていることを知りました。私の家では、読売
新聞を取っています。そこでは、「阪神・淡路大震災」ではなく、
「阪神大震災」と書いてあります。この差はなんなのだろうと思います。
うまく避難できなかった人や、建物の下じきになって、そこからうまくに
げることのできた人がその後病気にかかって、せなってしまう
というケースが少なくないことを知って、とても悲しくなりました。
「神戸新聞の7日間」というドラマに興味をもったので、見てみ
たいと思いました。今回大七刀だと思ったことは、自分の身は
自分で守ることです。必ずしも、誰かがそばにいないとはかぎ
らないので、自分で守るしかないと思いました。それと、1日
1日を大切に生きていきたいと思ひます。





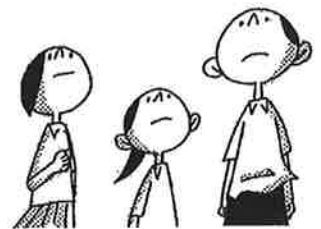
今回の講座では、阪神・淡路大震災の明石市の被害について、や、その時、神戸新聞社がどのような状況だったかを知ることができました。

今から、27年も昔のことだから、私はまだ生まれていませんでした。そんな私にとって、被災した方々のお話を聞かせて頂くことは、初めて聞いたことばかりで、とても重要な知識を身につけることができる素晴らしい機会です。過去の出来事から学び、これからの生活でどう備えていくかが大切だということに気づくことができました。

また、実際に自分の命をまもるために必要なことは何かを考える時間では、私は、うまく想像することができず、どうしたらいいか分かりませんでした。三好さんのお話を聞いて、普段から当たり前に行っていたことが、災害が起こった時には命を守る行動になることが分かりました。まずは今日帰ったら家族と避難場所や備品について話してみようと思います。

三好さんのお話にあたり、「備え」はいくらあっても足りず、「七くなった人達はもしかしたら私だったかもしれない」ということ、そして、「記憶は風化してしまうこと」、これらを意識して、忘れぬ、奪われぬ、生きようと思いました。

今日はお忙しい中、本当に有難うございました。

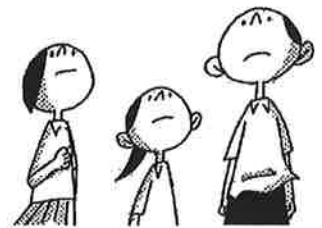




話を聞いて災害の恐ろしさをあらためて
実感しました。ちょうど27年前に起きた、「阪神
淡路大震災」というとても大きな地震では、
高速道路が横倒しになっていたりたくさんの場所で火事
が起きたりと大きな被害を受けていました。「平成」という
年は様々な場所で災害が発生していて「災害の時代」と
いわれていることも知りました。災害が起きるとその被害
を受けた人はとても苦しい、悲しいと思います。たけど、
新聞を作っている方々は安全安心の情報を読者の
励みになってほしいという記事を自分より優先して作っ
ていたということを知ってとても感動しました。

阪神・淡路大震災が起きて27年がたつた今もこの出来
事を忘れてはいけなさと語り継がれています。

何度も繰り返す災害にこれからどうむきあっていくのか、
南海トラフはもういつきてもおかしくないというこの時にど
ような備えをしておくのか、という問いかけを自分自身で
問うことができました。「備えにゴールはない」。今すぐには
少し役にも立つ備えをしていこうと思
いました。





今日の震災講演会を聞いてまず最初

に思ったことは、その当時のことを考えると、

とても大変だっただろうなと思いました。

理由は、この震災で家族や、知り合い、友達などが
亡くなった人々がたくさんいる中、生きている

からである。僕は震災と実際に体験した

ことはないけれど、もし今あの時と同じようなことが

起こったならば、必ずいつもやっている防災訓練

を繰り返さないと限らないのよ。とても知らない人が

たくさんいる避難所での生活などもかんがえて

みると恐ろしいなと思いました。でも今、地震の

対策を何もせず、ただおびえているだけだったら、

11秒のひびくことができれば、地震が起こる前に

非常用の防災バッグ、食料、水の備蓄などを行

っていきなさいなと思いました。一番安心なのは、

地震が起こるなと確信するなと思ったけれど、

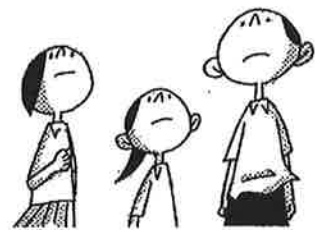
必ず地震はまたおこるので、どうせ起こるならば、

さっさと対策などをして、少しでも

安心して生活することの方が大事なん

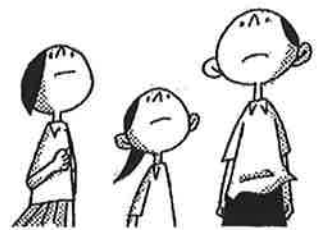
だよ。この講演会で知りることが

できてよかったです。





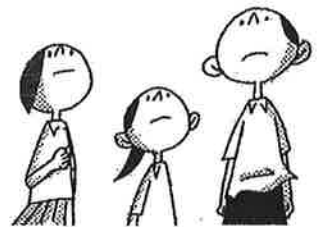
経験していないから... とよく分からなかった、あまり知ら
うともしなかった「震災」。画像とか映像とか見ている
と、何かが苦しくて怖くて、正直さけてきました。でも『南海トラフ』と
いう言葉をよく聞くようになって、自分は中学生だから何かできるか
も... なんて考える事もありました。三好さんのお話を聞いて私は、
「知る事」として、「伝える事」がとても大切だと感じました。ありま
たりな言葉がもしもないけれど、やっぱりとても大切な事。ドラマを
見ているだけでも、怖くて怖くて仕方がなかったです。でも怖いという
感情だけもって何もしなければ、私自身を、大切な誰かを、失ってし
まうかもしれない。絶対に嫌です！震災について自ら学び、教えて
もらう、伝える。何かできるかよく考えて、行動していきます。新聞を
つくる方々、カッコ良いなあと思いました。どんな日も何かあっても、人
のための新聞を発行する。どんな言葉でも表現するのは難しいけれど
強い方々だと感じました。ユーチューブで「花」を聞いた？見た？事
があります。悲しい顔をした多くの人達がいっぱい涙を流していました。
自然災害を止める事は不可能ですが、私は変える事ができます。学
ぶ事も事があります。困った時は、世界中の人々と
力をあわせて強くなりたいです。しっかり備えます！
お忙しい中、貴重な2時間をありがとうございます。
三好さんが伝えて下さった大切なもの、今度は
私達が伝えていきます。





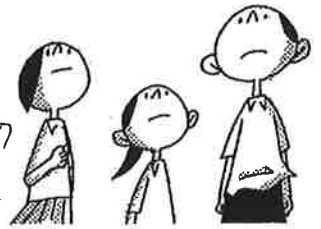
僕は、今日の震災講演会を聞いて、阪神・淡路大震災についてよく知ることができた。

今まで、阪神淡路大震災のことを、とても大きかった地震とぐらいしか知らなかった。でも、映像や写真で、家具が飛びまわり、ビルがたおれているのを見て、あらためて震災の、おそろしさについて実感した。そして、僕らが考えなければいけないのは、今までの震災や災害をふまえて、どういう準備をしていくかだと分かった。そういった点で「阪神大震災」という名前だったこの地震を淡路での死者62人を忘れないため、という理由で「阪神・淡路大震災」に変えるように要求した人は立派だと思う。僕がこれから生きてゆくなかで、何度も災害にあうことになると思う。そういったときに自分、そしてまわりの人を守るような人になれるようにしたい！





今回の講演会を聞いて改めて地震の怖さを感じました。
今、僕たちは、震度6や7の地震を経験したことにはないですが、
映像を観たり、当時の様子を家族にきいていると、恐ろしさがかかりました。
特に、阪神・淡路大震災は、早朝で普通であれば、寝ている人が多くいであらう。でもいきなり大きい揺れを感じると、目を覚ます人が大半で、一瞬の出来事で、下敷きになった人、けがをする人、命を奪われる人が多くいると思うと、とても悲しくなり、一瞬で兵庫県はまるで焼けのけらのようになるということに、辛く思いました。家族から聞いた話は、「食器棚が床を動いた」、「物が沢山落ちてきた」、「ピアノの場所が移動していた」ということを聞いていました。地元、明石市でも11人の人がなくなり、兵庫県では6438人という数多くの人がなくなり、建物や道路もぐちゃぐちゃになっていたそうです。僕が一番「辛いな」と思ったことは、地震が起きて、無事助かった人でも、避難場所でも肺炎になったり、けがが悪化し、せくなったりする人が多くいるということです。せくなった人の家族、同級生、仲間、職場の人や近隣住民の人たちは泣きたくなるくらいに辛さ、悲しさを感じていると思います。平成は大災害の元号といわれ、令和になっても事件、事故、そして噴火、地震、火災、豪雨、更に、おとろくりに予想された「南海トラフ巨大地震」、全ての災害で、家族や自分自身がけがを減らす、絶対に命を落とさないために、どうすればいいのかを「家族とよく相談、話し合い」をして、
こからの災害に備えたいと思っています。そして別の都道府県で災害があったときに「ボランティア活動」や「募金」などに積極的に参加したり、協力して、よいよい県や国になるように協力したいと感じました。

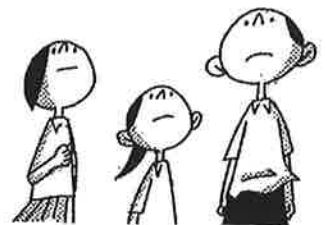




今日の講演会のために「神戸新聞の7日間」というドラマを10分だけ見たけど、阪神・淡路大震災の前日の小さなゆれや、阪神淡路大震災のゆれたとき、ゆれた後の記者たちの動きを少し見て、三好さんの動きを聞いて、地震で窓ガラスが割れて、柱にヒビが入って、たななどの家具が飛んでいくほどの大きな地震でも、記者たちは集まらないといけなく、案外記者も大変そうだなと思いました。

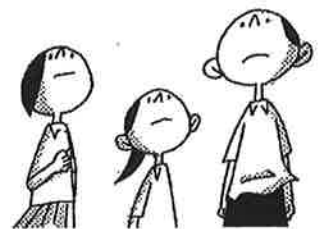
南海トラフや首都直下型地震などの30年以内に起きると言われている地震に向けて、食料、水分の備蓄をたくさん用意して、いつでも地震やその他の災いも起きてても、大丈夫なように準備をしておきたいです。

阪神・淡路大震災で明石市は11人の方が亡くなったけど、その教訓を生かして、南海トラフや首都直下型地震では死者を少なくできたらいいなと思います。



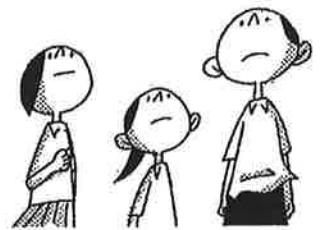


今日は三好正文さんの「震災講演会」を聞きました。地震のことについては僕自身あまり知らなかったし、その一ツツの災害でどれだけの人が亡くなっているのか詳しく分かりませんでした。そして、三好さんが言っていた平成は「災害の時代」だ。ということに関しては全く聞いたことがなかったです。元々平成は災害が結構あったということは少し知っていたけれど、まさか阪神・淡路大震災(1995年1月17日)、1つの地震のせいで火事が起こったり、ビル・馬車・電車などが崩れ、倒れてしまったりして多くの犠牲者が出ていてそれだけ特大な地震があったんだなと思いました。淡路島では11人、明石市でも62人もの人が亡くなってしまっています。そして、地震だけでなく豪雨(平成26年8月)や台風(2019年10月12日)などが日本をおそっています。台風では113人死亡、3人が行方不明者など地震の他の災害によっても死者が100人を超えるという事で僕はどんな災害でも絶対に油断してはならない。と思いました。





今日は、27年前 1月17日に起きた
「阪神・淡路大震災」について三好さん
に、いろんなことを教えてもらいました。この講演
会で私たちがうまれをずーと前の出来事の話し
だったので、知らないうちにたくさんありましたでも小学
校で写真などを見たことがあったので、「阪神高速
道路」がたおれたのは知っていました。でも、その他の
「神戸新聞本社」「阪神電鉄」「三宮センター街」
「JR」「阪急伊丹駅」などがたおれたり、こわれ
たことは、まったく知りませんでした。なので今日「阪
神・淡路大震災」で何が起きたのかいろんな
ことを知れて、よかったです。この大地
震で多くの人がなくなることわかりました。
それと、この「大震災から15年たった神戸新聞の7日
間」というドキュメンタリーが2010年にテレビで放映さ
れているのを知りました。もし見る機会があれば
見て見たいと思いました。





今日は朝さんの誕生日

をきいていろいろな

事が分りました。

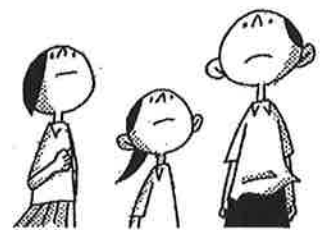
うさぎがいつまで

もいよいよおな

えていけたらいな

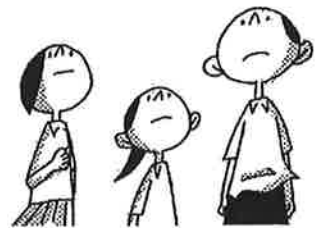
と思いましたが。

いよいよおな



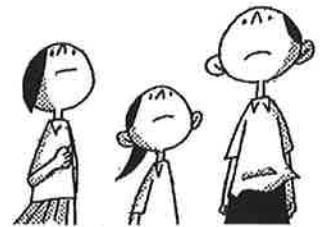


私は、今日の三好さんの「震災講演会」を聞いて改めて地震は怖いということに気がきました。私は生まれてから小さい地震なら経験したことがあるけど、また「大きい地震は経験したことがありません。なので今日の震災講演会を聞くまでは正直地震を怖れていなかったと思います。これまでに何度か地震について話を聞いたことがあったけどその時にも「どうせ地震なんかこーへんやろ」「きたとしても小さいのはっか」と思って地震のことは特に怖いとも思っていなかったし、なんばう学校が休みになるんだから地震きてほしいとまで思っていました。しかし、今日の映像や実際に被害にあった町の様子の写真を見ると地震はこんなに怖いんだということに改めて感じました。でも三好さんをはじめの新聞記者の方々はそんな怖い体験をしたにもかかわらず、全国の人に今の情報を伝えるためにてっやして記事を作っていたことを知り、こすこす泣きました。大きな地震で被害があった直後に冷静に判断し、行動できるのはすごいなと思ったし、もし自分もこういうことがあったら新聞記者の方々を見習いたいなと思いました。これからは、いつ地震が起きてもいいようにしっかりと準備をしておこうと思います。





今日は、震災講演会で三好さんの話を聞いて、
阪神・淡路大震災についての出来事をたくさん知
りました。その中でも特に印象に残っているのは、
震災のときも新聞記者の人達は新聞を作っていたという
ことです。私はこのことを聞いて、とても驚きました。震災の
ときなのに、今の現状が分からない人達のために新聞を作
っていたのは、すごいなと思いました。それに、大きな記事を書
くときは、住民の立場を考えながら記事にすることを心
掛けていたと知って、住民の人達が悲しまないように、
ポジティブな言葉を使っていた記者の人達は優しいなと思いま
した。他にも、阪神・淡路大震災の影響で起きた被害につ
いても詳しく学びました。震災の影響で、6434人の死者が
出たと知って、地震で物が落ちてきたり、家がくずれたりした
から亡くなってしまったのだと思っていたけど、それだけではな
いことが分かりました。火事になっている所に消防車が来れ
なかったり、生活するために必要なものや食料、ツカサキあて
するものがなくて亡くなってしまった人もいました。だから、
震災が起きたとき用に非難グッズを用意して
おくことは、とても大切なことだと思います。
自分の身は自分で守れるように、普段から
用意したり、非難訓練に取り組むことが大切
だと思いました。

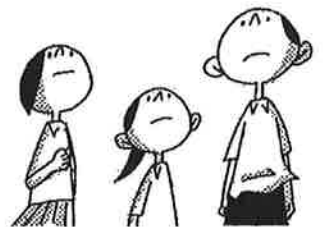




今日の授業で、阪神・淡路大震災²²についてくわしく知ることができました。阪神・淡路大震災²²での死者は6434人で、僕が思っていたよりも、人数が少なくなくて、びっくりしました。神戸新聞本社も全壊したり、阪神電鉄がくずれ落ちたりしていて、すごく大変だったそうです。神戸の学校では、最大1700人の人たちが学校に避難しました。柏井ビルも前倒しに倒れてしまいフラワーロードもふさいだ。この阪神・淡路大震災²²で、ほとんどの家や建物物が壊れたりしました。

地震は、建物物以外で、人の命までもうばってしまいます。

そのようにことにならないようにするためにも、防災訓練や、日ごりの生活などを大切しながら、生活をしていかないといいけないし、もし地震が起きた時、どこの場所に家族や友達と集合するかを、前から決めておくことや、避難した時に食べる食料などもまとめて防災バックに入れておくなどの対策をバッチリにして、地震が来ても、正しい判断がでるようになるようにしたいです。





阪神・淡路大震災から、もう27年
もの時が過ぎました。今でも、地震や
災害は起きるけれど、自分でたいけんした
わけではないから、どう言う感じになっ
たのかは、分からないけれど、がこ一番
ひどい地震が起きたんだと思います。
地震が来た時の感じなどは、今
はあんまり大きな地震はないと思うの
で、「あ、今日地震あったんや」といしか
感じない時の方が多いと思います。
でも、今小さな地震が来たとしたら、もし
かしたりのほんの少しの地震が予震と
言うかのうせいだから十分にふるからこの
くらいにふることをたいしく思う。こいたら
い大きな地震がきたり、またく動け
なくなると思います。なので小さな地震
だったとしても、十分に注意
してほうびグループなどを、しっかり
いっしょにおきたいです。

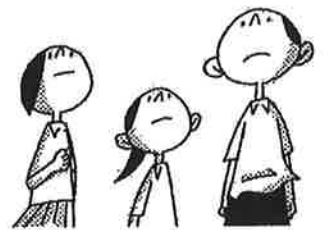




今日の震災講演会を聞いて、自然災害のおそろしさや身を守るための備えなどについてたくさん知ることができました。「神戸新聞の7日間」を少し見ましたが、あの少しの映像だけで地震のおそろしさが分かりました。また、新聞社もすごく大変なことになっていて、そんな時でも新聞を出さないといけないので、本当に苦勞したと思います。

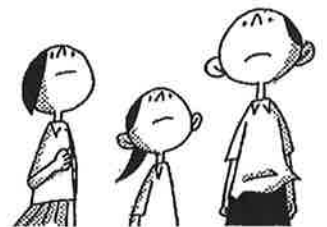
災害が起きたとき、自分の命を守るために何をしなければいけないかを考えました。頭を守る、危険な物から離れる、など対策は色々ありますが、まず「災害知識がないと命を落とす危険は高まります。今ある自分の知識で考えることも大切ですが、もっとたくさんの災害知識をもって考えることも大切だ」と分かりました。震災の被害にあった町がだんだんもとにもどっていき、神戸ルミナリエが出来たときは、多くの人が涙を流したと聞きました。実際に震災を経験した方から聞くと、本当につらかった気持ちが伝わってきました。

私は大きな震災を経験したことがないので分からないけれど、少しでも災害知識を身に付けることが出来たと
思うので、これから自分にできることを考えて
備えをしていきたいです。



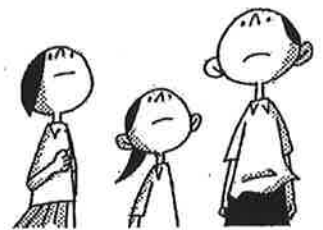


今回で阪神・淡路大震災について改めて知りま
した。阪神淡路大震災の日付は知っているけ
ど、今年で何年たったかは知りませんでした。
そして、27年と聞いてそれなりにたったんだと思
いました。阪神・淡
路大震災で「多くの人が」なくなり、負傷し、家をなくし、
知人が亡くなったりと、悲しいことが「たくさん起きたんだ」とい
うことを知って、家で防災をしないといけな
いんだ」というのがわかりました。その後にも、関東での地震や、最近だと海
底火山の噴火などの災害が起きました。ニュースで知ったこ
とで「海底火山の噴火で、日本の沖縄のほうにも1m
くらいの津波が来た」というニュースで「1mだからそんな
いひ害はないと思
っていたけど、1mでもそうすご
いもので、講演会で言
っていた、34mの津波というのはもっ
とすごいものなので、地
震ばかりでなくいろいろな災害の起
き方かもしれないことを
そうして、対策をしないといけ
ないんだ」と思いました。
阪神淡路大震災を経験した人が「これ
からとんとんと減っていく
ので、今生きている人達が、経
験をしてたとしても、後世に
伝えていかないといけ
ないのだ」と思
いました。





今日は三好さんの話を聞いて、阪神・淡路大震災で多くの人が亡くなり生き残れたとしても72時間の壁をこえなければならぬことが分かりました。阪神・淡路大震災によって家族が生きているか、けがをしていないか心配な時でも神戸新聞社の人達は人々に情報を伝えるため神戸新聞社に集まって新聞をつくるのはすごいことだと思いました。また、京者新聞社との災害協定がなければ神戸新聞は発行できなかったから人と人の助け合いは大変なことだと改めて分かりました。今日、三好さんから阪神・淡路大震災についての話を聞いて、災害が起こるか分からないから備えをしっかりとし、災害が起こった時のために知識をつけたいといけないなと思いました。また、災害が起きた時に地域の人と助け合いができた方がいいなと思いました。





今日、講演を聞いて大震災によって
うけた被害や、地震時の行動の仕方、コ
レ禍での避難のし方がよく分りました。

私は、今住んでいる明石が、阪神・淡路大震災によって
11人も死者がでていたことにおどろきました。それに
近くの淡路島では、62人も死者がでていて、高中でいう
と約2クラス分の人たちがいっしょにして死んでしま
うなんて、想像もできませんでした。中には「2時間の壁」
と言う、人が何も食わず、飲まずに生きていける時間は
意外短いんだなと思えました。それにかけきなどの
下敷きになって、動けないうちに火事で死んでしまうなど
いろいろな被害があったんだなと学びました。

このことを2度とくり返さないようにするために
備えることをしたり、避難所の確認が大事なと分
りました。それとこの大被害の事を忘れては行けな
いということ。地震について学んでおけば、もし
地震がおきた時、少しでも被害を減らせるこ
とができるかもしれないので、学ぶこと
は大事なと分りました。

